

ブラジルの政局整理とテメル政権の今後の行方

- テメル大統領の汚職疑惑から始まったJBS問題は、録音テープの改ざん疑惑やJBS社の不正金融取引疑惑に発展。
- 現在、連邦警察が録音テープの解析を進めており、今後のJBS問題の進展は最高裁による判断がカギを握る模様。
- 当面の焦点はテメル大統領がJBS問題に伴う辞任を回避できるか。議会で大統領の弾劾手続きが進む公算は低い。
- 2014年大統領選挙の当選無効を問う選挙裁判所の判決に注目集まる。判決次第ではテメル政権続投の可能性も。

JBS問題を契機に複雑化するブラジルの政局

5月17日のグローボ紙報道をきっかけに明らかとなった食肉大手JBS社の汚職疑惑は、テメル政権を揺るがす政治問題に発展しています。JBS問題はテメル大統領の汚職隠蔽疑惑だけでなく、JBS社側にも新たな疑惑が浮上したことで、政局の混乱を複雑なものにしています(図1)。

会談を記録した録音テープに改ざん疑惑が浮上

問題の発端のグローボ紙報道では、JBS社バチスタ元会長との会談の中で、テメル大統領がクーニャ元下院議長への口止めを容認しているとの疑惑が明らかとなりました。

しかし、最高裁が後に公開した会談の録音テープでは、会話内容に不明瞭な点が多く、テメル大統領の汚職関与を裏付けるには証拠不十分との見方があるほか、第三者の専門家の指摘などから録音テープ自体に改ざんが加えられた疑惑も浮上しています。

JBS社にも不正金融取引や司法取引を巡る疑惑

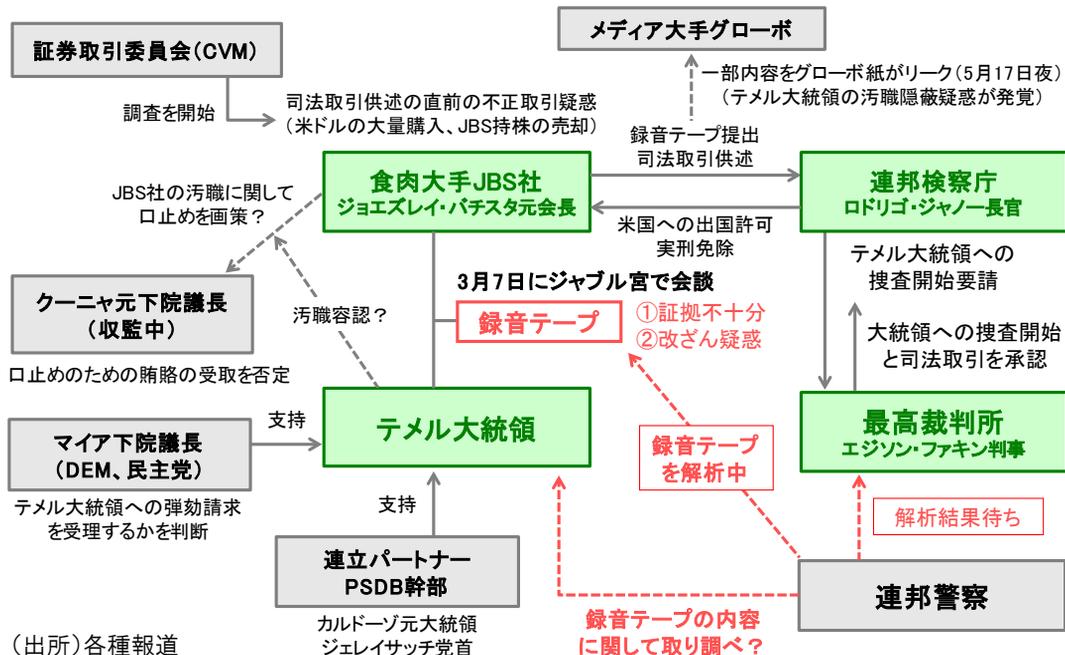
JBS社側にも、司法取引の直前に米ドルの大量購入や自社株売却などの不正な金融取引を行った疑惑があり、現在、証券取引委員会が調査に乗り出しています。

また、バチスタ元会長がテメル大統領を含む大物政治家の汚職関与について供述した見返りとして、有罪判決による実刑を免れ、米国への出国が認められた司法取引合意に関しても、公平性に問題があるとの批判があります。

JBS問題の行方は最高裁の判断がカギを握る

今後のJBS問題の進展は、テメル大統領への捜査開始と司法取引を承認した最高裁による判断がカギを握っていると考えられます。現在、最高裁の指示を受けて、連邦警察が録音テープの解析作業を進めており、解析結果次第で、テメル大統領への捜査方針や司法取引の合意内容が見直される可能性もありそうです。

図1: JBS問題を巡るブラジルの政局関係図



(出所)各種報道

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。



市場はテメル大統領が辞任を回避するかに注目

JBS問題がこう着状態に入中、ブラジルの金融市場は一時的に落ち着きを取り戻しつつあります。市場関係者の当面の焦点は、テメル大統領がJBS問題に伴う辞任を回避し、年金改革や労働法改正などの経済改革の議会審議を維持できるかに集まっているとみられます。

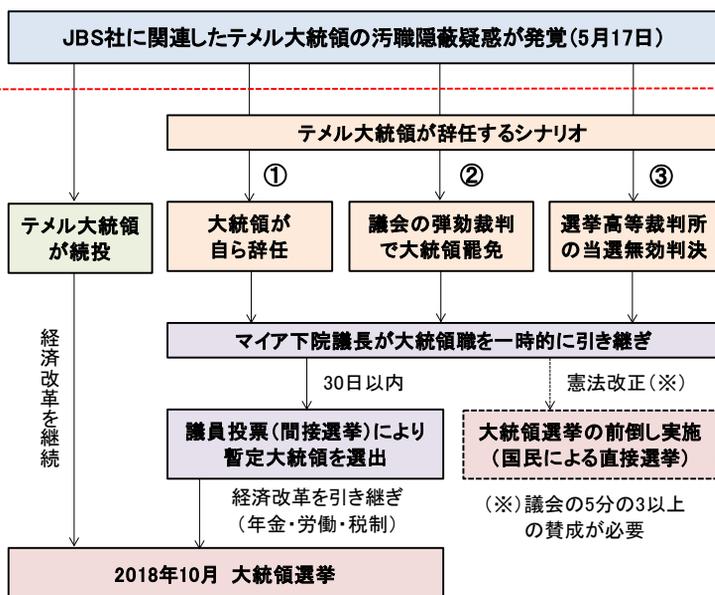
今後、テメル大統領が辞任に向かうシナリオには、①大統領が自ら辞任、②議会が弾劾裁判で大統領を罷免、③選挙高等裁判所が2014年大統領選挙の当選無効判決を下す、の3つがあります(図2)。このうち、大統領が自ら辞任するシナリオ(①)に関しては、テメル大統領は疑獄の発覚直後から辞任しない方針を明確に示しています。

議会で大統領の弾劾手続きが進む可能性も低い

また、大統領の弾劾裁判シナリオ(②)に関しても、弾劾請求の受理を判断するマイア下院議長がテメル大統領への支持を表明しているため、現時点では議会で弾劾手続きが進む可能性は低いとみられています。

実際、ルセフ前大統領の弾劾裁判のケースでは、弾劾請求の受理から罷免決定まで約9カ月の期間を要したため、議会で弾劾裁判を進めることは政権の空白を生む政治的な代償が大きいという側面があります。

図2: ブラジル政局の今後のシナリオ



(出所)レグ・メイソン・アセット・マネジメント

注目される選挙高等裁判所の判決の行方

足元で注目が高まっているのは、選挙高等裁判所による2014年大統領選挙の無効判決シナリオ(③)です。

選挙高等裁判所は、不正資金の使用疑惑から2014年大統領選挙でのルセフ大統領/テメル副大統領(当時)の当選無効を問う公判を6月6日より開始する予定です。

テメル政権の連立パートナーであるブラジル社会民主党(PSDB)も、選挙高等裁判所の判決結果が出るまではテメル大統領を支持する方針を示しており、判決の行方は連立政権の結束にも大きく影響する要因となっています。

テメル政権が続投する可能性も依然残されている

ブラジル現地紙の報道では、テメル大統領の辞任の可能性を見据えて、次の暫定大統領の候補者として、ジョビン元最高裁長官やカルドーゾ元大統領、メイレス財務相など様々な人物の観測が浮上しています(図3)。

ただし、録音テープ等に関する連邦警察の捜査や選挙高等裁判所の判決次第では、テメル政権が続投する可能性も依然残されているとみられます。JBS問題を受けて一時的に機能停止していた議会は5月23日より再開されており、議会在司法問題と経済問題を別と捉え、経済改革の審議を進めるかにも市場の注目が集まりそうです。

図3: 暫定大統領の主な候補者(報道ベース)

| 候補者 | 役職・経歴 | 政党 | 年齢 |
|-------------------|--------------------------|-----------------|-----|
| ネルソン・ジョビン | 元防衛相 元法務相 元最高裁判所長官 | ブラジル民主運動党(PMDB) | 71歳 |
| タッソ・ジェレイサッチ | PSDB党首 上院議員 | ブラジル社会民主党(PSDB) | 68歳 |
| ロドリゴ・マイア | 下院議長 | 民主党(DEM) | 46歳 |
| フェルナンド・エンリケ・カルドーゾ | 元大統領 | ブラジル社会民主党(PSDB) | 85歳 |
| エンリケ・メイレス | 財務相 | 社会民主党(PSD) | 71歳 |
| ジルマール・メンデス | 最高裁判所判事 選挙高等裁判所長官 | - | 61歳 |
| カルメン・ルシア | 最高裁判所長官 | - | 63歳 |

(出所)各種報道

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。